

地域おこし協力隊活動報告書

活動団体	南九州市茶業振興会
役職	
氏名	窪 拓摩
着任日	令和3年2月1日

活動月	令和6年3月(着任3年2ヶ月)
主な活動	1. 茶最盛期での労働力確保に向けた体制づくりを強化 2. 外部企業との連携、ブランディングづくりの商談 3. 地域を超えた情報交流への注力、その他

1. 茶最盛期での労働力確保に向けた体制づくりを強化



写真: 茶最盛期を目前に全員が新茶で乾杯@森の学校

協力隊着任時の業務内容(テーマ)にはでていないものの、活動の中でソフト面での知覧茶ブランディングだけではなく、生産サイドの課題も日々見えてきており、私の中で一つ形にしようと進めていたのが「茶繁忙期を中心とする労働力確保」です。

昨年までは、労働力における「人材」を確保することが最大の課題となっておりましたが、本年は作業に従事いただく方々の現場までの「アクセス方法」や、生活をする上での「拠点(宿泊場所)」が大きな課題となり、非常に注力をしました。

当月末には、人材派遣会社YUIME株式会社様のご協力に加え、ワーカーの宿泊拠点として前向きなお返事をいただき、森の学校(旧 長谷小学校)を生活拠点として活用させていただくこととなったRIVER BANK様のご協力のもと、開所式を実施いたしました。

地域おこし協力隊活動報告書

今回の取り組みでは、南九州市内にある11茶工場に計25名の海外からのワーカーの方々が入り、数ヶ月間当市に住民票を移し活動していただきます。



写真:(左)南日本新聞掲載 / (右)会場の様子

今回の取り組みについて、開所式翌日には南日本新聞に掲載をいただいております。

表面上は、人材確保という位置付けでの取り組みに見えますが、今年の茶業現場を気に入っていただき、来年以降も継続して当市へきていただけるような環境ができてくると、「関係人口」づくりになるのではないかと考えます。

とあるニュースでは、日本国内でも人材不足が加熱しており、海外からのワーカーを取り合うような事態になってきているという報道があり、今までの「安く労働力を抑えるため」での雇用は通じなくなっているという実情をしっかりと受け止め、ワーカーと雇用サイドが良好な関係構築に努める必要性を強く感じております。

2. 外部企業との連携、ブランディングづくりの商談



写真:南九州市茶業振興会総代会の様子

地域おこし協力隊活動報告書

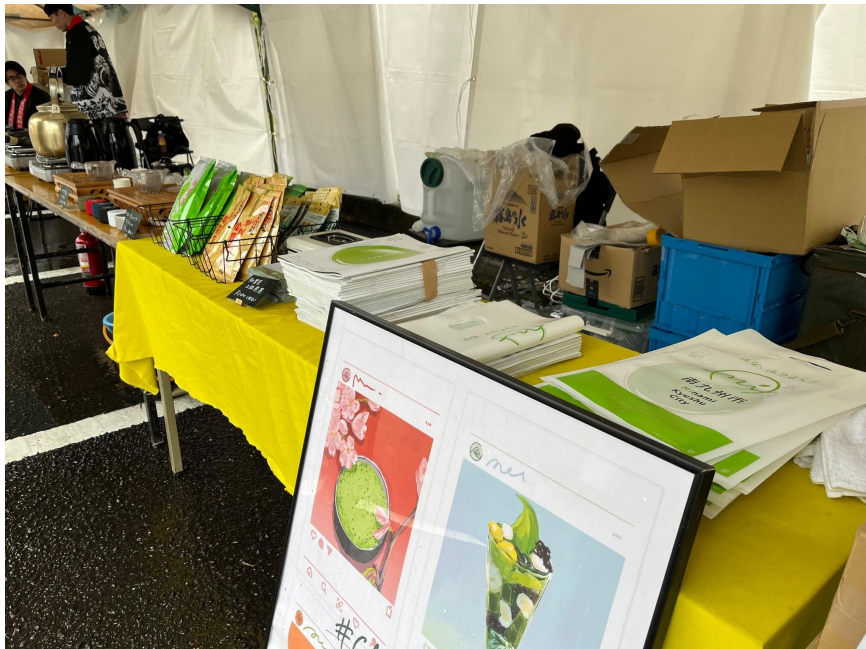
当月は、春先以降のイベントや企画実施に向け、着々と外部企業との取組をしております。コロナもすっかり落ち着き、対面でのオフライン活動が活発に行われておりますので、見落としのないよう同時並行で進めていけたらと思っています。
茶業振興会としては、年度末の各部総会が毎週開催され、スケジュール管理を特にしっかりとしていかなければならない月となりました。

3. 地域を超えた情報交流への注力、その他



写真:(左)協力隊まつり案内書 / (右)会場の様子

現在、私は協力隊の任期として延長期間にある状態にて、今活動しているポジションを後任に引き継ぐための業務内容の精査をしております。そんな中、後任の協力隊募集と市のPR活動を主だった目的とし、鹿児島県内の地域おこし協力隊やJICA海外協力隊が多数参加するイベントでブース出店をしました。



イベント当日は、あいにくの雨となってしまいましたが、県内各地から大勢の方々に足を運んでいただき、活気ある会場で南九州市のPR≡知覧茶のPR活動ができたかと思います。当市のブー

地域おこし協力隊活動報告書

スでは、知覧茶のふるまいのほか「ほうじ茶風焙煎体験」のワークショップを実施し煎茶からほうじ茶ができる流れを楽しんでいただきました。また、川辺でつくられているクラフトビールもPR販売し、旅の雑誌(市の観光雑誌)を手にとり観光情報など広く認知いただけたかと感じております。

以上簡単ではございますが、当月の報告といたします。



南九州市
Minamikyushu City